

大阪大学 GLOCOL, 大阪大学グローバルイニシアティブ・センター開講
海外フィールドスタディプログラム (2010 年度～2022 年度)

フィールドスタディ名	実施期間	実施場所	参加学生の所属 (括弧内は人数)	成果物など
組織的な大学院教育改革推進プログラム「健康環境リスクマネジメント専門家育成」プログラム	2010 年 8 月	中国山東省	人間科学研究科 (3 名、中国出身の留学生 1 名を含む)、医学系研究科 (1 名)、中国現地では北京大学の学生 (1 名)、中国農業大学の学生 (2 名)	「海外調査安全管理対策」を構築 実践を通じての国際交流、発展途上国の人材育成。詳しくは、GLOCOL ブックレット 10 『中国における食品の安全・安心』を参照。
	2011 年 8 月	タイ ベトナム 中国雲南省	薬学研究科、人間科学研究科、医学研究科、工学研究科 (中国の留学生 1 名、ベトナムの留学生 1 名、計 12 名)	
GLOCOL 海外フィールドスタディ「メコン：生態環境と水資源」プログラム	2012 年 8 月	中国雲南省	人間科学研究科 (3 名)、工学研究科 (2 名)、法学研究科 (1 名)、言語文化研究科 (中国の留学生 1 名)	現場における研究と教育の融合。詳しくは、GLOCOL ブックレット 11 『メコン—GLOCOL 海外フィールドスタディにおける教育と研究の連携への試み』を参照。
GLOCOL 海外フィールドスタディ「モンゴル：開発と地域の持続性」プログラム	2012 年 8 月	モンゴル国 ウブルハン ガイ県	人間科学研究科 (2 名)、工学研究科の学生 (4 名)、現地のモンゴル人学生 (1 名)	適正技術の調査、研究を実施。
	2013 年 8 月		経済学研究科 (1 名)、工学研究科 (2 名)	①研究成果を現地政府に提案。②調査研究成果を日本語・モンゴル語で出版。
	2015 年 8 月		工学研究科 (3 名)	研究成果を日本語・モンゴル語出版。
GLOCOL 授業「環境問題への回路Ⅱ実践演習」の一環「観光開発と持続可能な地域づくり」	2014 年 11 月	中国雲南省 プアール市	人間科学研究科および人間科学部 (3 名)、文学部 (1 名)、外国語学部 (1 名)	プアール学院大学、雲南大学と大阪大学の共同研究に発展。
GLOCOL 海外フィールドスタディ「観光開発と地域の持続性」プログラム	2015 年 3 月	中国雲南省 紅河地域	人間科学研究科および人間科学部 (2 名)、外国語学部 (4 名)、文学部 (1 名)、首都大学文化人類学研究室 (1 名)	分野横断型で大学院生、学部生の調査研究を実施。
高大連携フィールドスタディ「健康環境」	2016 年 7 月	ベトナム 北部	薬学研究科 (6 名)、工学研究科 (1 名)	薬学研究科科目「途上国の感染症の予防」受講生が兵庫県立高校 (SGH 校) と合同で実施。
プアール地域における生業形態・経済活動の動態に関する実証研究「グローバル化・市場化の進展／文化・生物多様性の維持を架橋する方法論を求めて」	2017 年 3 月 1 日～10 日	中国雲南省 プアール地域	工学研究科 (1 名)、理学部 (1 名)、外国語学部 (5 名)、東京大学工学系研究科 (1 名)、首都大学文化人類学研究室 (1 名)	日本語で報告書を発行。
大阪大学住野勇グローバル人材育成基金—外国人留学生国際交流活動支援事業—「未来の視点から遊牧地域再生を目指す」	2017 年 8 月 6 日～14 日	モンゴル国 ウブルハン ガイ県	人間科学部 (1 名)、人間科学研究科 (モンゴル人留学生 1 名)、法学部 (1 名)、外国語学部 (1 名)、基礎工学研究科 (1 名)、東京大学工学系研究科 (1 名)	現地で水車を製作、発電に成功した。持続可能な遊牧社会の実現に向けた提案を行った。モンゴル現地および日本で報告書 (文) を発行。在モンゴル日本大使館、モンゴル・日本人材開発センター、JICA モンゴルよりプログラム活動に関する感想や励ましの言葉を頂いた。
大阪大学住野勇グローバル人材育成基金—外国人留学生国際交流活動支援事業—「雲南省プアール市における環境保全型農業モデル地域 (村) を構築するための国際協働」	2017 年 9 月 12 日～20 日	中国雲南省	人間科学研究科 (中国人留学生 2 名)、薬学研究科 (1 名)、工学研究科 (2 名)、首都大学文化人類学研究室 (1 名)	森盛林化有限公司のパンフレットの改訂版の作成・配布、珈琲加工段階で発生する汚水処理法の提案。日本語で報告書の発行。

フィールドスタディ名	実施期間	実施場所	参加学生の所属（括弧内は人数）	成果物など
大阪大学未来基金「モンゴルにおける環境の未来可能性—日蒙学生の地域学習と探求を通じて—」	2019年 8月11日 ～20日	モンゴル国 ウブルハン ガイ県	外国語学部（3名）、工学部（1名）、工学研究科（1名）*私費参加者2名、北九州市立大学（経済学部1名、地域創生学群2名）	モンゴル国立大学、北九州市立大学との3大学連携事業の実現。モンゴル環境省より最高メダル「優秀専門家賞」を受賞（スチンプ）。モンゴル環境保護省に提案書提出。日モ両言語で報告書発行。
大阪大学・未来基金「プアール市における完全有機化モデルの構築」	2019年 9月20日 ～29日	中国雲南省	外国語学部（2名）、工学部（3名）、法学部（1名）*私費参加者5名	解決案を現地の組合、企業が実践。日本語と中国語で報告書発行。
海外フィールドスタディプログラムA（※）	2020年 11月～ 2021年2 月	兵庫県 宍粟市	外国語学部（3名）、法学部（1名）、工学部（1名）	地域特産品（鹿肉、サーモン、ドクダミ）を活かした地域活性化プランを提案、実行。獣害被害対策について研究、活動報告書『宍粟との出会い』を発行
海外フィールドスタディプログラムA（環境問題への回路Ⅱとの合同開催）（※）	2021年 12月～ 2022年3 月	兵庫県 宍粟市	外国語学部（1名）、人間科学部（1名）、工学部（1名）、経済学部（2名）	絵本の制作（テーマ：地域の環境に向き合う）、波賀一宮観光振興プロジェクト活動報告書を発行
海外フィールドスタディinモンゴル・宍粟市	2022年 9月～ 2023年 3月	モンゴル国 中央県・宍粟市	人間科学部（4名）、薬学研究科（1名）、理学部（1名）、社会人（2名）	牛糞で肥料づくり、雑草で製紙、絵本制作、カードゲームを用いた環境教育、ドクダミ茶の販売、活動報告書作成、モンゴル市場調査

【フィールドスタディの経緯（概要）】

2005年：WWFの事業の一環として中国雲南省で環境保護活動および地域づくりスタート

2008年：モンゴル国ウブルハンガイ県で環境保護および地域活動スタート

2010年：大阪大学大学院薬学研究科との協働「環境マネジメントグローバル人材育成プログラム」を実施
海外フィールドスタディプログラム開始

2019年：私費参加や社会人の参加を承認（一部）

※ 2020年度および2021年度は新型コロナウイルス感染症拡大により、海外渡航が困難であったため、フィールドを国内に変更し実施した。